

商工観光部 商工労働課の方針書

組織名	商工観光部 商工労働課
所属長名	赤川 博幸

1. 組織の使命(ありたい姿)

市内事業者の成長支援や起業・創業支援等により、地域経済社会の活力向上と地域活性化が図られている。

2. 組織の抱える課題(現状)

- ・コロナ禍およびエネルギー・原材料価格高騰による地域経済停滞の克服
- ・人口減少と地域経済縮小への対応
- ・労働生産性向上と付加価値増大の支援
- ・多様な働く場の確保及び支援
- ・市有温泉施設の経営

3. 今年度の『スローガン』

地域経済課題の克服や支援により、まちに“にぎわい”と“活気”を生み出そう

4. 今年度の方針

- ・横手市商工業振興計画の次期計画策定
- ・市内事業者の事業継続及び成長支援
- ・労働力維持確保のための取り組み推進
- ・雇用を生み出す起業・創業への支援
- ・若年者の就労、地元定着への支援
- ・市有温泉施設運営の方針確定及び着手

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	市内事業者への支援により地域経済が活性化されている
	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横手市商工業振興計画の進捗、課題等を検証し、次期計画策定に繋がります。</li> <li>・企業の事業継続・拡大のための“生産性向上”“産学共同”につながる技術力向上や人材育成等の取り組み支援を強化します。</li> <li>・国、県等を含む各種支援制度の利活用による投資意欲の醸成を図ります。</li> </ul>
(2)	実現したい成果	起業・創業への支援により起業家数が増加しているとともに若年者の地元定着が進んでいる
	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たなBizサポートよこてを核にし、起業家育成に注力するとともに、駅東口の賑わいを創出します。</li> <li>・商店街等における空き店舗活用と賑わいの創出への支援を図ります。</li> <li>・起業予定者に対する資金調達の支援を行います。</li> <li>・若年者地元定着のため、事業所の魅力発信を支援し雇用のマッチングを促進します。</li> </ul>
(3)	実現したい成果	市有温泉施設運営方針を定め、具体的取り組みに着手している
	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営の在り方について地域住民との意見交換を実施し、最終的な方向性を確定させます。</li> <li>・譲渡公募、指定管理公募手続き等具体的な取組みに着手します。</li> </ul>

## 6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

### (1) 市内事業者への支援による地域経済活性化

- ・次期「横手市商工業振興計画」策定にあたり計画期間中の成果(指標含)進捗を確認。また、課題等の検証を行いつつ「地域経済分析・課題解決提案業務」を委託し、市が抱える課題を解決するための提案を取りまとめた。
- ・エネルギー価格高騰による事業者等の経営支援のため「エネルギー高騰対策支援事業」を展開し経営持続化に取り組んだ。(9月末現在:469件、33,088千円)
- ・生産性向上につながる技術力向上や人材育成等のため、市内企業等に対する支援策として各種補助金を交付。(中小企業設備導入支援事業:7件/中小企業人材育成支援事業:5件/横手市企業振興条例の助成金・奨励金として指定企業:3件、雪対策:17件、雇用奨励金 11件)

### (2) 起業・創業への支援による起業家数の増加および若年者地元定着の進行

- ・Bizサポートよこてを核とし、専門家による経営指導や助言および伴走型支援等を行った。  
Bizサポ利用状況(個室スペース 4者/6室、シェアスペース 1者/5室、コワーキングスペース(延べ) 175人、会員登録数 188人、起業ワンストップ相談窓口延べ利用者数 51人)
- ・ハンズオン支援プログラム業務委託を行い、経験共有型成長セミナーの開催や、伴走型経営個別支援に取り組んだ。
- ・商店街等における空き店舗活用と賑わいの創出への支援を行った。  
(空き店舗等利活用支援事業補助金 / 6件)
- ・起業予定者に対する資金調達の支援を行った。(起業・創業支援事業補助金 / 7件)
- ・若年者地元定着のため、事業所の魅力発信や雇用のマッチングイベント等を開催した。  
(7/1あきたまるごとAターンフェアin東京:相談者7名/北東北大学等インターンシップ開拓訪問:6大学等/5/15関係機関による商工団体への新規高校卒業者の地元就職及び職場定着の推進に関する要請/6/13新規高校卒業予定者情報交換会、8/21横手市就職面接会・企業説明会)

### (3) 市有温泉施設運営方針を定め、具体的取り組みに着手

- ・公共温泉の方向性について、各地域において住民説明会を開催。また6月議会定例会において方向性を示した。9月議会定例会において、関連する予算を計上し、譲渡公募、指定管理公募手続き等具体的な取り組みに着手する予定であったが「上畑温泉」の水源および源泉の不具合により内容について協議検討のため、一旦中断とした。

## 7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

### (1) 市内事業者への支援による地域経済活性化

#### 【課題】

- ・エネルギー価格が高騰し続けていることから、地域経済の動向を注視する必要あり。
- ・企業の競争力強化を目指すため、企業等に対して産学共同研究を活用したイノベーション支援が必要。

#### 【取組】

- ・次期「横手市商工業振興計画」策定に向け、作業部会および策定委員会を開催。
- ・引き続き「エネルギー高騰対策支援事業」を展開しながら該当事業所等にアンケート調査を行い検証を行う。
- ・産学連携や企業支援アドバイザーによる直接的な助言等を行い、新たなマーケティング、新事業展開の検討・構築のための支援強化を図る。

### (2) 起業・創業への支援による起業家数の増加および若年者地元定着の進行

#### 【課題】

- ・Bizサポートよこての利用者数増、起業・創業支援および空き店舗利活用支援による地域商業活性化に向けた更なる誘導策を強化する必要あり。
- ・地元企業等の労働力確保と若年者地元定着のための情報発信等の強化が必要。

#### 【取組】

- ・Bizサポートよこての利用者、起業・創業者および空き店舗利活用者数増に向け、広くPR等を行う。
- ・関係機関と連携し、「横手JOBナビ」を活用した市内事業所魅力発信や就職面接会等を開催し、労働力不足解消と若年者の地元就職を促す取り組みを強化する。

### (3) 市有温泉施設運営方針を定め、具体的取り組みに着手

#### 【課題】

- ・最終的な方向性を示す必要がある。

#### 【取組】

- ・地域住民説明会や議会との協議を行い、市営温泉施設の最終的な方向性を示し、具体的な取り組みに着手する。

## 8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

### (1) 市内事業者への支援による地域経済活性化

計画期間中、新型コロナウイルス感染症やエネルギー高といった市内経済に大きな影響を与える不測の事態の発生により、課題解決がなされておらず、成果指標と現状には乖離があったため、PDCAマネジメントサイクルの実施、および現状の状況そして計画策定委員からのご意見等を反映し、計画の終期を2年延長、内容の一部改定を行った。引き続き進捗管理を行いながら成果目標達成に向け着実に計画実行し課題解決を図る。

・エネルギー価格高騰による事業者等の経営支援のため「エネルギー高騰対策支援事業」を展開し経営持続化に取り組むことができた。(922件、62,888千円)

・生産性向上につながる技術力向上や人材育成等のため、市内企業等に対する支援策として各種補助金を交付。

(中小企業設備導入支援事業:15件/中小企業人財育成支援事業:17件/横手市企業振興条例の助成金・奨励金として指定企業:6件、雪対策:16件、雇用奨励金 11件:45人)

引き続き、産学連携や企業支援アドバイザーによる直接的な助言等を行いながら支援強化を図る。

### (2) 起業・創業への支援による起業家数の増加および若年者地元定着の進行

・Bizサポートよこてを核とした起業・創業支援や伴奏型支援に取り組んだ。

Bizサポ利用状況(個室スペース 4者/6室、シェアスペース 1者/5室、コワーキングスペース(延べ)439人、会員登録数225人、起業ワンストップ相談窓口延べ利用者数97人)

また、ハンズオン支援プログラム業務委託を行い、経験共有型成長セミナーの開催や、伴走型経営個別支援を行った。

・商店街等における空き店舗利活用支援による地域商業活性化を図った。

(空き店舗等利活用支援事業補助金 / 7件)

・起業予定者に対する資金調達の支援を行った。(起業・創業支援事業補助金 / 7件)

・若年者地元定着のため、事業所の魅力発信や雇用のマッチングイベント等を開催した。

(あきたまるごとAターンフェアin東京:7/1開催 相談者8名、10/22開催 相談者7名/北東北大学等インターンシップ開拓訪問:6大学等/5/15関係機関による商工団体への新規高校卒業者の地元就職及び職場定着の推進に関する要請ほか新規高校卒業予定者情報交換会や就職面接会・企業説明会、小中学生向けのイベントを開催した)

引き続き、若年者等へ地元企業の魅力を伝える機会を提供し地元定着促進を図る。

### (3) 市有温泉施設運営方針を定め、具体的取り組みに着手

・公共温泉の方向性について、各地域において住民説明会を開催。また6月議会定例会において方向性を示した。9月議会定例会において、関連する予算を計上し、譲渡公募、指定管理公募手続き等具体的な取り組みに着手する予定であったが「上畑温泉」の水源および源泉の不具合により内容について協議検討のため、一旦中断とした。その後の12月議会において、指定管理者制度施設および民間譲渡施設に関する公募要件等の予算可決となったことから今後は実際の取り組みに着手する。

# 令和5年度

## 商工観光部 企業誘致課の方針書

組織名	商工観光部 企業誘致課
所属長名	平塚 和仁

### 1. 組織の使命(ありたい姿)

地域経済が活性化している

### 2. 組織の抱える課題(現状)

多様な働く場の創出と人材確保

### 3. 今年度の『スローガン』

さらなる企業の誘致に向けて  
発信する(魅力発信)、呼び込む(企業誘致)、備える(工業団地造成)

### 4. 今年度の方針

- ・企業誘致による多様な雇用の場の創出に向けた取り組みを強化し、若者の地元定着を進め、多くの人が地元で活躍する横手を目指す。
- ・企業誘致を一層推進していくため、新たな工業用地の造成に取り組む。

### 5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	新規企業誘致と進出企業の留置
	取組内容	・秋田県と連携した関西東海圏企業への誘致活動を継続する。 ・県内外企業にサテライトオフィスを利用してもらうことにより、将来の立地に繋がるよう誘致活動を行う。 ・進出企業の円滑な操業に向け、きめ細かなサポートを行う。 ・ものづくりネットワークやフォローアップ訪問により、企業とのコンタクトを切らさない取り組みを継続する。
(2)	実現したい成果	誘致企業への新卒者等の採用支援
	取組内容	・連携協定を結んでいるハローワークと合同で横手管内の高校6校への訪問と併せ、県内外の大学・専門学校等へも訪問を行い、新卒者等の地元定着を促す。 ・企業と合同で県内高校を訪問し、就職担当教諭に市内企業の特徴や魅力をPRする。
(3)	実現したい成果	工業用地造成
	取組内容	新たな工業用地の造成に向け、用地取得、必要な設計等を進める。

## 6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

### (1) 新規企業誘致と進出企業の留置

- ・秋田県産業集積課及び秋田県名古屋事務所と連携し、集積を進めている自動車関連企業に注力し誘致活動を実施。併せて、サテライトオフィスへの誘致に向けたIT関連企業への訪問など様々な分野の誘致活動を実施。
- ・進出企業の円滑な操業に向け、情報提供、学校への同行訪問等サポートの実施。
- ・事業拡大による誘致認定1社。

### (2) 誘致企業への新卒者等の採用支援

- ・ハローワークとの横手管内高校への合同訪問6校。
- ・誘致企業及び新規立地企業との高校及び専門学校への合同訪問延べ33校。
- ・商工労働課との秋田県内の大学(理工学部)及び専門学校への合同訪問2校。

### (3) 工業用地造成

- ・用地取得に関し、地権者より合意が得られ、今後、契約に向けた事務を進める。
- ・必要な上下水道関係の実施設計を進める(委託業務発注済み)。

## 7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

### (1) 新規企業誘致と進出企業の留置

課題 東海圏企業への誘致活動及び操業に向けたサポート。

方針 県名古屋事務所に職員を派遣している強みを活かし、情報共有を密にしながら自動車関連企業への誘致活動を行う。また、進出を決めた企業へ円滑な操業となるようサプライチェーン構築を含めたきめ細かなサポートを行っていく。マーケティング調査を行い様々な企業へ横手市を広くPRしながら、県外企業のサテライトオフィス設置を促していく。既存進出企業へは、定期的な訪問を行うことにより、繋がりが途切れない活動を行っていく。

### (2) 誘致企業への新卒者等の採用支援

課題 次年度へ繋がる採用支援の実施

方針 市内にどのような企業があるのか分からないとの声があることから、R7年3月卒業予定となる現在の高校2年生へ市内企業情報の周知を行う。

### (3) 工業用地造成

課題 用地取得へ向けた地権者への説明

方針 今年中の契約、所有権移転の手続きを円滑に行う。

## 8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

### (1) 新規企業誘致と進出企業の留置

成果

- ・事業拡大に伴う誘致認定2社、新規立地に伴う協定1社、新たな働く場(3社で操業時雇用47人)を創出できた。
- ・企業訪問は市内延べ136社、県内延べ25社、県外延べ60社。(内リモート会議が延べ16社)
- ・既存企業及び親会社への訪問、横手ものづくりネットワークを通じた情報交換を密にし、コンタクトを切らさないための取り組みを実施した。

課題

- ・横手市第二工業団地の分譲可能地はわずか0.7ヘクタールあまりとなり、当市内に用地を求めようとする県外企業の引き合いに応えることができない状況にある。

### (2) 誘致企業への新卒者等の採用支援

成果

- ・ハローワークとの横手管内の高校への合同訪問6校。企業との県南地区の高校への合同訪問延べ33校。市内企業のPRのため大学等を2校訪問した。

課題

- ・県南部の高校への市内企業情報の周知はもちろんのこと、今後も県内の大学・専門学校等へのPRに本格的に取り組みながら高卒者及び大卒者等の地元定着を促していく必要がある。

### (3) 工業用地造成

成果

- ・予定していた用地取得を滞りなく終了した。また、工事に関連する委託業務を全て完了した。

課題

- ・引き続き関係者の理解と協力を得ながら造成工事を進めて行く。

# 令和5年度

## 商工観光部 観光おもてなし課の方針書

組織名	商工観光部 観光おもてなし課
所属長名	藤倉 幹夫

### 1. 組織の使命(ありたい姿)

横手の観光の魅力を多方面に発信し、国内外からの誘客を進め、観光振興を地域・経済の活性化に結び付ける

### 2. 組織の抱える課題(現状)

- ・コロナ禍からの観光機運や観光活動の回復と観光需要の変容
- ・インバウンドの往来事業再開に伴う海外旅行客の取り込み(大同大連携事業、台湾-秋田便就航、国際クルーズ船)
- ・通過型観光から脱却するための市全体の回遊性の向上と滞在時間の延長
- ・横手市観光推進機構及び民間事業者との連携による稼げる「観光地域づくり」の推進
- ・市内各観光団体はもとより、県、近隣市町村、JR、空港、NEXCO等との連携した誘客

### 3. 今年度の『スローガン』

来訪者を充たす地域で創る「持続可能な横手の観光」

### 4. 今年度の方針

第3次観光振興計画の推進(\*計画期間のKPI達成に向けての中間年度)

- ・安心安全な観光地としての受入体制の強化
- ・横手市観光推進機構(DMO)と連携した「観光地域づくり」の推進
- ・観光素材の磨き上げと全市回遊滞在型観光の推進

### 5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	安心安全な観光地としての受入体制の強化
	取組内容	・持続可能な伝統行事・イベント等の実施方法を考え、集客・賑わいの創出を行います。 ・インバウンドでは、メインターゲットとなる台湾との直接往来の事業を早期に再開させ、観光客と応援人口の増を目指します。
(2)	実現したい成果	横手市観光推進機構(DMO)と連携した「観光地域づくり」の推進
	取組内容	・横手市観光推進機構(DMO)及び民間事業者と連携し「観光地域づくり」を進めるとともに、「地域の稼ぐ力の創出」の後押しをします。 ・横手ならではの「コト体験」「自然体験(看板商品)」「ワーケーション」を広くPRし、旅行商品として売込みをしていきます。
(3)	実現したい成果	観光素材の磨き上げと全市回遊滞在型観光の推進
	取組内容	・誘客のターゲットを明確にし、観光客の満足度向上と観光消費額の拡大を進めます。 (関西からの観光消費を伴った誘客と大阪万博と連動させた横手の魅力発信、北上等の半径100キロ圏内からの誘客) ・出前かまくらを中心とした横手のPRと、期間を広げた観光かまくらの取り組みを実施します。 ・増田まんが美術館を中核に据え、マンガを中心に歴史・文化を観光の視点で発信し、観光施設、宿泊施設、交通機関を連携させることで全市回遊滞在型観光を進めます。

## 6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

1. 安心安全な観光地としての受入体制の強化
  - ・新型コロナウイルスが5類となり、まつり・イベント等がコロナ禍前に戻った形で盛況に実施することが出来た。(各地桜まつり、スカイフェスタ、芝桜フェスタ、平鹿あやめまつり、全国線香花火大会、大雄サマーフェスティバル、送り盆まつり、十文字狸々まつり、横手駅東口まつり、増田の花火、山内いものこまつり 等)また、花火を伴う行事については追加支援をするなど、賑わいの創出と地域住民の士気の上昇をもたらすことが出来た。
  - ・インバウンドについては、産学官連携協定を結んでいる台湾大同大学より市内企業にインターンシップ生7名を招き、就業体験及び横手の情報発信をしていただいた。また、冬季誘客のプロモーションのため、台湾台北市で開催された「台北国際観光旅行展」に観光推進機構、秋田ふるさと村、宿泊事業者と連携して出展したが、この直前に台湾一秋田空港のチャーター便就航が決まり、来場者にはより強力なPRが出来た。
  - ・タイ向けFacebookでの情報発信の実施(6月～)。
2. 横手市観光推進機構(DMO)と連携した「観光地域づくり」の推進
  - ・観光推進機構へ市が補助金を支出する、もしくは事業委託する事業(横手駅前賑わい創出、横手エキスパート事業等)、機構が独自に国等から補助金採択された事業(観光地再生・高付加価値事業等)の連携・後押しを進めている。
  - ・モニターツアーを実施したコト体験(雪国体験等)の商品化を図り、観光推進機構が予約サイトで販売中。
3. 観光素材の磨き上げと全市回遊滞在型観光の推進
  - ・横手市がイチ押しする増田まんが美術館「エバ大博覧会」に際し、北上市、花巻市でのPRを強化した。
  - ・大阪城公園、大阪国際空港、東京タワー等、主となる「出前かまくら」については早々に協議・準備を進めている。
  - ・全市回遊に向けてデジタルサイネージ等での観光情報発信の実施。(8月末まで145件)

## 7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

### 【課題】

- 「雪まつり」の形態を含めた完全復活(子ども達の関わり)と、そのPRである「出前かまくら」を安全かつ盛大に実施する。
- まつり前のかまくらを活用して冬期間の誘客を進める。
- インバウンドの再開に合わせて、準備してきた設備等を有効活用する。
- 大阪での誘客イベント事業を成功させ、「誘客」「大阪万博参加」等の目的を達成させる。

### 【取り組み】

1. 安心安全な観光地としての受入体制の強化
  - ・秋から冬に向けた伝統行事・イベントの安全かつ盛大な実施。(横手やきそばフェスティバル、菊まつり、雪まつり、出前かまくら)
  - ・インバウンドの回復に対応する無料Wifi、多言語看板、多言語パンフ等の有効活用。台湾との友好事業の実施。
  - ・台湾一秋田空港チャーター便運行に係る台湾からのツアーの誘致。
  - ・地域通訳案内士の育成。
2. 観光地域づくりの推進
  - ・横手市観光推進機構と連携した横手ならではの「コト体験」の商品化と売り出し。
  - ・地域おこし起業家、地域おこし協力隊との有効な連携。
3. 観光素材の磨き上げと全市回遊滞在型観光の推進
  - ・横手の雪まつりin大阪城公園の実施による関西圏からの誘客増。
  - ・国補助金を活用した冬期間(雪まつり前の期間)の誘客促進のためのコンテンツ造成・PR。
  - ・「JR重販地区指定」「北上線活性化」に連動した誘客の促進。

## 8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

### ■取組の結果

1. 安心安全な観光地としての受入体制の強化
  - ・観光行事(伝統行事・イベント)については、もれなく通常開催することができた。当市最大の行事である「横手の雪まつり」についても、子どもたちの接待を復活させての完全形態で実施できた。
  - ・地域通訳案内士9名の育成、多言語パンフ改定等により、インバウンド客を迎える体制が整いつつある。
2. 観光地域づくりの推進
  - ・「観光地域づくり法人」へ登録3年目となった横手市観光推進機構との連携と支援を行った。総務省の制度を活用した人的支援を実施した。
3. 観光素材の磨き上げと全市回遊滞在型観光の推進
  - ・大阪城公園や伊丹空港をはじめとした出前かまくらは、大好評を得るとともに強力に「雪国横手」のPRを進めることができた。
  - ・「かまくら」を活用してのまつり期間前のインバウンド向けモニターツアーやPR事業を行い、本格的な期間を拡大した誘客に向けての準備を進めることができた。
  - ・横手駅東口まつり等で「北上線活性化」に連動した誘客の促進ができた。

### ■成果

- ・入込客数や宿泊者数などがコロナ禍前にほぼ回復してきているとともに、誘客のターゲットとしてきた台湾や関西圏からの来訪者が確実に増加している。

### ■次年度に向けた課題

- ・第3次観光振興計画(R3～7年度)の最終目標に向け、内容の具現化(事業化)のラストスパートを進める。
- ・これまでの観光客数を目標とした誘客施策にターゲットとなる観光客の満足度を高める「質」を重視した誘客施策を加えていく。
- ・台湾からのチャーター便就航でインバウンド客は増えたが、ツアーの宿泊地にはしてもらえていないので、更なる観光消費額拡大を目指す。

令和5年度

## 商工観光部 横手の魅力営業課の方針書

組織名	商工観光部 横手の魅力営業課
所属長名	松井 尊臣

### 1. 組織の使命(ありたい姿)

横手産品の販路拡大支援、魅力ある地域資源のPR、横手ファンづくりが進み、市内事業者の所得向上と地域経済の活性化につながっている

### 2. 組織の抱える課題(現状)

- ・横手産品の特徴を踏まえた販路拡大支援
- ・新規取組事業者及び産品の発掘と育成
- ・横手産品の認知度向上及びブラッシュアップ
- ・物価高騰下における事業者の支援
- ・横手ファンの獲得と関係性の強化

### 3. 今年度の『スローガン』

更なる横手の魅力を発掘・発見、そして発信！

### 4. 今年度の方針

- ・多種多様な横手産品の販路拡大を支援する
- ・新たな魅力の掘り起こしを推進する
- ・様々な手法により横手産品の魅力を発信する
- ・応援人口との新たな関係づくりを進める
- ・仙台圏への横手の魅力発信を強化する

### 5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	国内外での横手産品の販路拡大
	取組内容	・首都圏外食市場をターゲットとした販路開拓を推進します。 ・首都圏・仙台圏の小売店舗において販売促進活動を実施します。 ・商談会への出展を支援するとともに、バイヤー招聘等により商談の機会を創出します。 ・国内外で既存販路の定着と拡大を図りつつ、新たな販路開拓に向けた取組を実施します。
(2)	実現したい成果	横手産品の認知度アップと販売促進
	取組内容	・県内外での物産展の開催、イベントへのブース出展等により、横手産品をPRします。 ・よこてfun通信やSNSなどの広報ツールを活用し、積極的に物産情報を発信します。 ・物産関連団体と連携し、市内事業者の物産販売を後押しする取組を実施します。 ・ふるさと納税制度を活用し、横手産品をPRするとともに、販売促進につなげます。
(3)	実現したい成果	横手ファンの獲得・拡大と関係性の強化
	取組内容	・横手応援拠店の新規登録及び店舗と連携した魅力発信を推進します。 ・よこてfun通信の発行(年4回)を通じて、ファンとのつながりを維持するとともに、更なるファンを獲得します。 ・物産事業を通じて、横手ファンとの交流を深める機会を創出します。



## 6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- (1) 国内外での横手産品の販路拡大
  - ・4年度に実施した「外食産業マッチング支援事業」のアフターフォローとして、横手産品を購入いただいた飲食店を訪問し、商材に対する評価等の聞き取りとともに継続使用の打診を行った。
  - ・首都圏及び仙台圏の小売店舗において、横手産品のフェアを開催した。(九州屋1回、こととや1回)
  - ・首都圏から小売事業者のバイヤー等を招き、市内事業者とのマッチングを実施した。(2回)
  - ・市内事業者の海外輸出を支援した。(マカオ 輸出回数10回・取引額116万円)
- (2) 横手産品の認知度アップと販売促進
  - ・県内外での物産展の開催及びイベントへのブース出展により、横手産品のPR・販売を行った。(5回)
  - ・物産団体連絡協議会と連携し、市内誘致企業に対して、社員を対象とした横手市物産フェアの開催を提案した。
- (3) 横手ファンの獲得・拡大と関係性の強化
  - ・横手応援拠店の新規登録を推進した(登録件数4件)。また、店舗で横手産食材を使用してもらうために無料でサンプル品を送る「お試し便」を実施した。店舗の自発的な横手市PR活動に協力した。
  - ・市の公式SNSや物産展等での情報発信により、よこてfun通信の新規読者を獲得した。(4月～9月 160人)
  - ・よこてfun通信読者を対象に「リトルよこてin武蔵小山」の販売サポーターを募集。14人から申込をいただいた。

## 7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- (1) 国内外での横手産品の販路拡大
  - 【課題】市内事業者の販路開拓・拡大の支援
  - ・首都圏外食企業への訪問営業を継続するとともに、外食企業関係者を当市に招聘し商談機会を創出する。
  - ・首都圏や仙台圏の小売店舗等への商品提案及び販促活動を実施する。併せて、積極的な事業所訪問により、情報やニーズを収集する。
  - ・海外販路アドバイザーと連携し、海外市場における販路開拓・拡大を推進する。
- (2) 横手産品の認知度アップと販売促進
  - 【課題】横手産品の効果的な発信
  - ・首都圏及び仙台圏において交流物産展「リトルよこて」を開催するほか、各地のイベントに出展し、横手の魅力ある農産品・加工品・工芸品をPRする。
  - ・GIいぶりがっこの認知度向上及び販売促進を図るための取組みを実施する。
- (3) 横手ファンの獲得・拡大と関係性の強化
  - 【課題】よこてfun通信読者の獲得、応援拠店との関係性の強化
  - ・新規読者の獲得に向けた取組みを実施する(読者紹介キャンペーン等)。
  - ・首都圏や仙台圏で開催する催事やイベントに合わせて、横手応援拠店と連携した取組みを実施する。
  - ・仙台圏をターゲットとした魅力発信の取組みを推進し、仙台圏内における応援人口の拡大を図る。

## 8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- (1) 国内外での横手産品の販路拡大
  - 【成果】首都圏から食品卸・小売事業者のバイヤーを招聘し、市内事業者とのマッチング商談や現地視察を実施。また、市内の事業者同士(製造業と小売業)のマッチングにも取り組んだ。計22回の商談に関わる場を設け、事業者の販路拡大を支援した。また、海外販路においては、海外販路アドバイザーの協力を得てマレーシアの市場調査を実施した。
  - 【課題】横手産品の現状に適した販路拡大支援の推進、新たな輸出相手国の開拓
- (2) 横手産品の認知度アップと販売促進
  - 【成果】県内外での物産展の開催、友好都市・交流都市で行われたイベントへの出展など、計25回の対面によるPR・販売機会を通じて横手産品の認知度及び売上の向上につなげた。また、市内誘致企業向けにWEB上での物産展を実施し、新たな市場創出を図った。
  - 【課題】物産PR及び販売機会の確保、商品のレバートリー強化を図るための新たな魅力の掘り起こし
- (3) 横手ファンの獲得・拡大と関係性の強化
  - 【成果】県内外のイベントでのPR等により、よこてfun通信の新規読者を約650人獲得し、物産購入等での応援が期待できる応援人口の増加につなげられた。中でも主要ターゲットである仙台圏では120人獲得できた。横手応援拠店事業では、首都圏・仙台圏の8店舗を新たに拠店に登録。両圏で開催した物産展「リトルよこて」において拠店と連携した取組みを実施した。
  - 【課題】読者増加に伴う発行経費増への対応、横手応援拠店と連携した魅力発信の推進